

学校编码: 10384

分类号_____密级_____

学 号: K1003011

UDC_____

厦 门 大 学

硕 士 学 位 论 文

森鸥外的历史小说及其文学性主题探析
——以《兴津弥五右卫门的遗书》、《阿部一族》、《大盐平八郎》为研究文本

森鷗外の歴史小説とその文学的主题
——『興津弥五右衛門の遺書』、『阿部一族』、『大塩平八郎』
を中心に

黄 建 华

指导教师姓名: 吴 光 辉 教 授

专 业 名 称: 日 语 语 言 文 学

论文提交日期: 2013 年 月

论文答辩日期: 2013 年 月

学位授予日期: 2013 年 月

答辩委员会主席: _____

评 阅 人: _____

2013 年 04 月

厦门大学博硕士论文摘要库

厦门大学博硕士论文摘要库

厦门大学学位论文原创性声明

本人呈交的学位论文是本人在导师指导下,独立完成的研究成果。本人在论文写作中参考其他个人或集体已经发表的研究成果,均在文中以适当方式明确标明,并符合法律规范和《厦门大学研究生学术活动规范(试行)》。

另外,该学位论文为()课题(组)的研究成果,获得()课题(组)经费或实验室的资助,在()实验室完成。(请在以上括号内填写课题或课题组负责人或实验室名称,未有此项声明内容的,可以不作特别声明。)

声明人(签名):

年 月 日

厦门大学博硕士论文摘要库

厦门大学学位论文著作权使用声明

本人同意厦门大学根据《中华人民共和国学位条例暂行实施办法》等规定保留和使用此学位论文，并向主管部门或其指定机构送交学位论文（包括纸质版和电子版），允许学位论文进入厦门大学图书馆及其数据库被查阅、借阅。本人同意厦门大学将学位论文加入全国博士、硕士学位论文共建单位数据库进行检索，将学位论文的标题和摘要汇编出版，采用影印、缩印或者其它方式合理复制学位论文。

本学位论文属于：

（ ） 1. 经厦门大学保密委员会审查核定的保密学位论文，
于 年 月 日解密，解密后适用上述授权。

（ ） 2. 不保密，适用上述授权。

（请在以上相应括号内打“√”或填上相应内容。保密学位论文应是已经厦门大学保密委员会审定过的学位论文，未经厦门大学保密委员会审定的学位论文均为公开学位论文。此声明栏不填写的，默认为公开学位论文，均适用上述授权。）

声明人（签名）：

年 月 日

厦门大学博硕士论文摘要库

要 旨

晩年歴史小説に転じた森鷗外は、歴史小説の創作をし、日本の歴史文学に大きな影響を与えた。鷗外によって書かれた歴史小説が歴史であるか、小説であるかは、しばしば論議されている。本論では、森鷗外の歴史小説の前期作品『興津弥五右衛門の遺書』、『阿部一族』、『大塩平八郎』を中心に、それぞれテキストの分析を通し、鷗外の歴史小説の創作手法とその文学主題を検討しようとする。

本論の「はじめに」においては、日本文学評論家吉田精一、加藤周一の森鷗外への評価を引用し、森鷗外の先行研究を、日本と中国に分けてそれぞれ紹介し、本論の問題意識や章立てを明らかにする。

第一章においては、森鷗外という人物とその歴史小説を中心に、鷗外本人とその貢献、歴史小説の創作の縁起あるいは動機を述べ、鷗外の文学の主題と批判的精神を検討する。第二章においては、『興津弥五右衛門の遺書』を中心に、歴史小説の創作の契機としての乃木「殉死」事件を巡り、乃木本人の遺書や「殉死」事件を述べ、『興津弥五右衛門の遺書』の創作背景、粗筋、意義を明らかにし、明治末期の殉死への態度という角度から「殉死」という制度を検証しようとする。第三章においては、『阿部一族』という作品の創作背景、粗筋を述べ、人物の心理描写を中心に、テキスト分析をしようとする。この文学作品から明らかのように、鷗外は「殉死」に対して、今までの「賛美」の態度が変わり、批判の態度を取ったのである。第四章においては、『大塩平八郎』を中心に、歴史的事実としての大塩平八郎を基にし、小説の章立てに注目しながら、鷗外の『大塩平八郎』を分析し、鷗外の創作方法と批判的精神を検討する。

本論の「終わりに」として、『興津弥五右衛門の遺書』、『阿部一族』、『大塩平八郎』三作品において鷗外は、「死」という文学主題のもとに、社会的倫理、人間の善悪を分析し、社会的批判を行っている。晩年になった鷗外は、歴史其儘と歴史離れという一見矛盾した創作手法から出発し、自分に相応しい文学創作の道を見つけたように考えられる。

キーワード：森鷗外 歴史小説 創作手法 文学主題

摘 要

森鸥外晚年转向了历史小说的创作，对日本历史文学的创作产生了巨大的影响。鸥外创作的历史小说究竟是小说还是历史，围绕这一历史争论，本论尝试以森鸥外历史小说的前期作品《兴津弥五右卫门的遗书》、《阿部一族》、《大盐平八郎》为对象，采取文本分析的方法来探讨鸥外历史小说的创作手法和文学主题。

本文的序言引用了日本文学评论家吉田精一、加藤周一针对森鸥外的评价，介绍了中日两国有关森鸥外的先行研究，提出了本论的问题意识和章节构成。

第一章介绍了森鸥外这一人物及其历史小说，强调了森鸥外的文学贡献，论述了鸥外历史小说的创作缘起或者动机、森鸥外文学的主题和批判精神。第二章以森鸥外的历史小说《兴津弥五右卫门的遗书》为例，围绕着作为《兴津弥五右卫门的遗书》创作契机的乃木殉死事件，探讨乃木遗及其殉死事件，阐述《兴津弥五右卫门的遗书》的创作背景、主要内容、文学意义，探讨了明治末期日本社会针对“殉死”这一制度持有的态度。第三章以《阿部一族》这部小说为研究文本，介绍了该小说的创作背景、主要内容，以各个人物的心理描写为对象进行分析，指出森鸥外一改过去的态度，对“殉死”这一现象展开了批判。第四章以小说《大盐平八郎》为例，介绍了作为历史事实的大盐平八郎，以森鸥外的小说的章节框架为切入点，就鸥外的《大盐平作郎》进行了文本分析，并探讨了其创作手法与批判精神。

作为本文的结论，笔者以为在《兴津弥五右卫门的遗书》、《阿部一族》、《大盐平作郎》三部作品中，森鸥外以“死亡”作为文学主题，分析了社会伦理、人性的善与恶，并展开了社会性的批判。到了晚年，鸥外在“忠于历史”与“脱离历史”的这看似矛盾的创作手之中，最终找到了一条适合自己的文学创作之路。

关键词：森鸥外 历史小说 创作手法 文学主题

目 次

はじめに.....	1
第一節 森鷗外への評価	1
第二節 先行研究	3
第三節 本論の問題意識及びその内容と構成	5
第一章 森鷗外とその歴史小説	8
第一節 森鷗外-その人と文学	8
第二節 歴史小説の縁起	10
第二章『興津弥五右衛門の遺書』	16
第一節 乃木希典の「殉死」	16
第二節 『興津弥五右衛門の遺書』	20
第三章 『阿部一族』	25
第一節 『阿部一族』	25
第二節 『阿部一族』を巡って	27
第四章 『大塩平八郎』	33
第一節 「歴史」としての『大塩平八郎』	33
第二節 「事件」としての歴史	41
第三節 「歴史事件」に対する鷗外の認識と評価	47
終わりに.....	51
先行研究附录	55
参考文献.....	68
謝 辞.....	72

目 录

序言	1
第一节 森鸥外的评价	1
第二节 先行研究	3
第三节 本论的问题意识及其内容与构成	5
第一章 森鸥外及其历史小说	8
第一节 森鸥外——其人及其文学	8
第二节 历史小说创作的缘起	10
第二章 《兴津弥五右卫门的遗书》	17
第一节 乃木希典殉死	17
第二节 《兴津弥五右卫门的遗书》	21
第三章 《阿部一族》	26
第一节 《阿部一族》	26
第二节 《阿部一族》的文本分析	28
第四章 《大盐平八郎》	34
第一节 作为“历史”的《大盐平八郎》	34
第二节 作为“事件”的历史	42
第三节 鸥外对“历史事件”的认识与评价	48
结语	52
先行研究附录	55
参考文献	68
谢词	72

はじめに

第一節 森鷗外への評価

『現代日本文学史』において吉田精一は、明治文豪の森鷗外(1862－1922)に対し、次のように評価している。「明治二十年代において、評論界の第一人者として活躍して、ドイツ語を通じて広く世界の文学を翻訳紹介し、多くの栄養分を日本の近代文学に与えました。……(中略)明治三十年代後半、彼は暫く文壇に遠ざかっていましたが、明治四十二年(1909年)、雑誌『スバル』の創刊とともに再び返り咲いて、主として小説、戯曲等の創作方面に筆をふるい、『ユタ・セクスアリス』『雁』などの現代小説の佳作を残しましたが、大正に入ってから、歴史小説に新生面を開きました。森鷗外の歴史小説は、客観的な環境のもとに人物と事件とを配置し、今日の現実と歴史の事実とを結んで、社会的行為の倫理的な意義を尋ねようとしたものです」^①

この評価から明らかなように、森鷗外は小説、戯曲、翻訳など多くの領域に渡り、多大な貢献を為した。その上、「歴史小説」という一点に集中し、森鷗外文学の性格や価値を高く評価している。このような日本と世界、文学と翻訳といった立場からなされた鷗外の歴史小説への評価に対して加藤周一は、『日本文学史序説』のなかで、文学史上における鷗外の役割を、五つの面に分けて評価を与えている。

「第一、その翻訳と西洋文学の紹介が与えた影響は、明治時代のほとんどすべての作家に及んだ。もし鷗外訳の『即興詩人』がなかったら、何人かの小説家は小説家にならなかったかもしれない。第二、その短篇または中篇小説が扱

^①吉田精一、現代日本文学史[M]、日本：筑摩書房、1963、第76頁。

った同時代の人物の種類の豊富と主題の多様性は、おそらく日本の小説家の中で前後に比類がない。第三、抒情詩においては、和歌の『我百首』が傑作で… … (中略)」^①

まず、加藤周一は、翻訳者としての鷗外、それから小説家としての鷗外、詩人としての鷗外の人物像を描いた。そして、近代日本文学における森鷗外の役割をさらに次のように述べている。

「第四、鷗外は日本語の散文の一つの文体を完成した。それは、漢文と欧文との表現の特徴を微妙に折り合わせた基礎の上に、口語体の散文を高度に洗練して成ったものである。その完成の時期は、およそ、彼が歴史小説を書き始めた時期と一致する。…… (中略) 歴史的な材料が、漢文の表現の簡潔さを日本語散文に生かし、事実即して正確な文体を作り出すのに有利だったということであり、鷗外が徳川時代の武士の倫理の積極的な意味を確認すると同時に、彼自身の日本語の文体を確立したということである。…… (中略) 第五、鷗外が晩年に作った徳川時代の学者の伝記、殊に『渋江抽斎』、『伊沢蘭軒』、『北条霞亭』の三作は、その形式がおそらく古今東西に例の少ない独特のものである。」^②

この第四、第五の指摘から明らかなように、森鷗外の文体の完成は、歴史小説の創作の基礎付けとなり、簡潔な漢文の表現、事実即して創作することは、森鷗外の文体の特徴となった。それだけでなく、加藤周一は、鷗外は日本語の文体の確立者のみならず、江戸時代の伝統的な道德倫理の叙述者として、積極的な意義を与えた。ここに、鷗外の歴史小説の二重の価値が現れている。一つは、文学的価値としての新しい口語体の散文、今一つは、歴史小説の時代的主

^①加藤周一、日本文学史序説下 [M]. 日本：筑摩書房、1970. 第 365-368 頁.

^②加藤周一、日本文学史序説下 [M]. 日本：筑摩書房、1970. 第 365-368 頁.

題としての積極的な意味である。このような二重の価値は、本論の問題意識の源流となっている。

第二節 先行研究

2.1 日本における先行研究

大雑把に言えば、日本における森鷗外の先行研究を、だいたい文学史、文学論を立場とする総合研究、森鷗外の人物や文学作品を中心とする専門研究、それから歴史小説を中心とする歴史小説の研究という三つに分けて行われている。

第一に、総合研究として、岩上順一の『歴史文学論』（中央公論社、1942 年）、中村光夫の『日本の近代小説』（岩波書店、1954 年）、長谷川泉の『近代日本文学鑑賞と研究』（明治書院、1955 年）、吉田精一の『現代日本文学史』（筑摩書房、1963 年）、加藤周一の『日本文学史序説』（筑摩書房、1970 年）、平岡敏夫、東郷克美の『日本文学史概説・近代編』（有精堂、1979 年）などが挙げられ、日本文学史上、森鷗外は文学家として位置づけられている。『近代日本文学鑑賞と研究②』に「小説家としての鷗外は、その多彩なエネルギーの一位相として浮かび上がってくる。しかもその小説は量質ともに卓越したものであった。」

^①と長谷川泉は森鷗外の文学地位について高く評価を与えている。

第二に、専門研究として、唐木順三の『森鷗外』（世界評論社、1949 年）、高橋義孝の『森鷗外』（新潮社、1954 年）、中野重治編の『作家研究業書-森鷗外』（新潮社、1957 年）、加藤周一の『鷗外』（岩波書店、1959 年）、吉田精一編の『森鷗外研究』（筑摩書房、1960 年）、渋谷駿の『森鷗外-作家と作品』（筑摩書房、1964 年）、日本文学研究資料刊行会編の『森鷗外 I』（有精堂、1977 年）、

^①長谷川泉. 近代日本文学鑑賞と研究②[M]. 日本：明治書院、1958. 第 281 頁.

山崎國紀の『鷗外森林太郎』（人文書院、1992 年）などが挙げられ、森鷗外は日本文学の代表者として研究されている。唐木順三は『人と文学』に「鷗外文学はいわば無限の宝庫である。」^①というように評価を与えている。

第三に、歴史小説の研究として、西尾実『鷗外の歴史小説』（古今書院、1953 年）、稲垣達郎『森鷗外の歴史小説』（岩波書店、1989 年）などが挙げられ、独自の文体が研究されている。『森鷗外の歴史小説』で稲垣達郎は、鷗外の歴史小説における代表的思想、創作方法、意味を分析して、「鷗外歴史小説における創作方法は、鷗外の歴史小説の、近代日本の歴史小説史上に占める地位を決定することに多分に関係してくると思われるので、彼の歴史小説研究の領域においても、とりわけ重要なものと考えられる。」^②というように評価を与えている。

2.2 中国における先行研究

中国人の先行研究といえば、多くは、鷗外作品の訳本、鷗外本人或いは鷗外の文学を中心に行われている。まず、文学史の立場から考えれば、叶渭渠、唐月梅の『日本文学史近代巻』が挙げられる。この書において叶渭渠は、まず、森鷗外が東方文化と西方文化、そして官僚の身分と文学者の身分との衝突から出発し、文学の各領域に大きな影響をもたらしたと高く評価している。それから、鷗外の経歴、文芸理論、坪内逍遙との「没理想論争」、美学論の導入を紹介しながら、『舞姫』、『雁』、『阿部一族』、『大塩平八郎』などの小説に評価を与えている。そのなかで、森鷗外の早期の小説、とりわけ『舞姫』を重点に論述し、ロマン主義者としての森鷗外の人物像を捉えている。

第二に、森鷗外の文学作品をめぐる諸形式の研究が挙げられる。そのなかで、

^①唐木順三. 人と文学[M]. 森鷗外集 日本文学全集 4. 日本：筑摩書房、1970. 第 492 頁.

^②稲垣達郎. 森鷗外の歴史小説[M]. 日本：岩波書店、1989. 第 31-32 頁.

劉立善「森鷗外の懺悔録」、王永良「論森鷗外『舞姫』的悲劇性」など鷗外早期の作品を対象とする先行研究も、劉立善「論森鷗外歴史小説的倫理思想」、李紅梅「從森鷗外後期作品淺談其創作特點」、寇淑婷「淺析森鷗外後期作品的現實主義特點」、閔立丹「《阿部一族》——森鷗外對歷史的再思考」、「森鷗外歴史小説的武士道觀」などの先行研究も挙げられる。その中で、すでに論文のタイトルから明らかなように、『舞姫』を中心にして、森鷗外早期のロマン主義小説に注目しただけでなく、森鷗外の歴史小説は、中国人の研究者から多くの関心を浴び、歴史小説の事実に確認、創作の特徴、さらに武士道、倫理觀をめぐって様々な領域から文学の考察を行っている。

さらに、中国人独特の立場から森鷗外の研究がなされている。その代表的な作品として、孟慶樞の『森鷗外与中国文学』が挙げられる。孟氏は『舞姫』、『雁』、『魚玄機』、『寒山拾得』を中心にして、森鷗外と中国文学のかかわりについて、伝統としての古典だけでなく、さらに近代における日本と中国の文学的交流の可能性を模索した。そのみならず、『森鷗外作品中的女性形象-以《舞姫》、《半日》、《安井夫人》為中心』を発表した李星は、ジェンダー問題から出発して森鷗外の文学を研究している。

第三節 本論の問題意識及びその内容と構成

3.1 本論の問題意識

森鷗外は晩年歴史小説に転じて、1912年から1920年までの十年に満たない間に、『興津弥五右衛門の遺書』、『阿部一族』、『大塩平八郎』、『山椒大夫』、『高瀬舟』、『渋江抽斎』などの歴史小説や歴史伝記を創作し、日本の歴史文学に大きな影響を与えている。

ただ、森鷗外の歴史小説が出版されて以来、それが小説か小説でないかと、

Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to etd@xmu.edu.cn for delivery details.

厦门大学博硕士论文摘要库